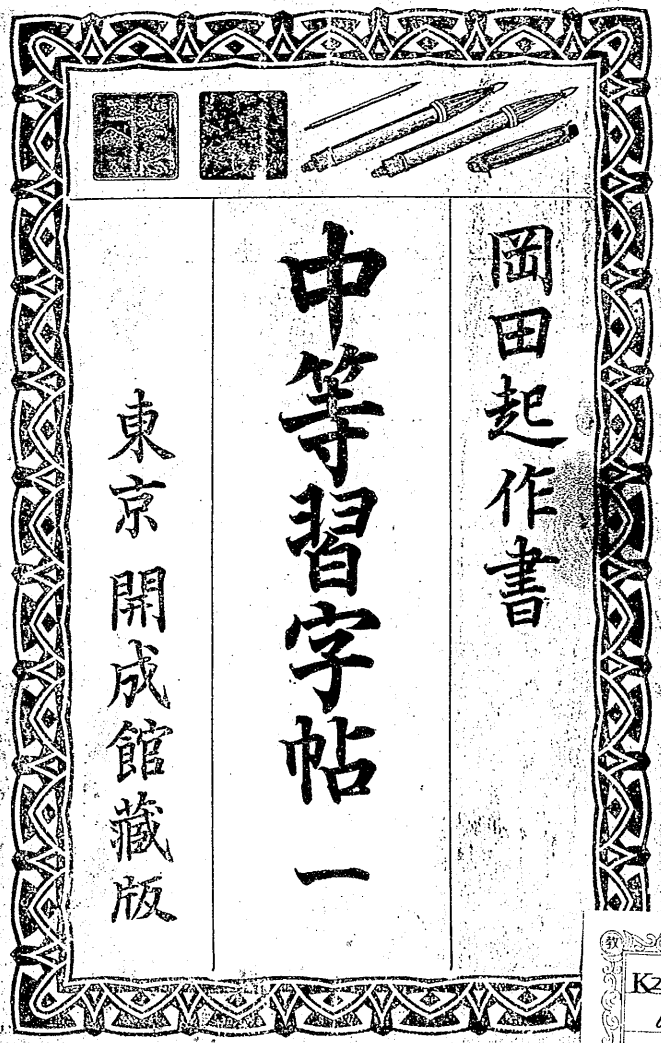

K220.72
64
1

例言

一本習字帖は尋常小學校及び同程度の諸學校の習字教科書として編纂したるものにして、主として文部省の現行教授要目に準據し、一部高等小學校の第一學年にその一卷を課するものとす。

一本習字帖の特色は、**手本と同大なる文字を習はしむるを目的とせるにあり。**從來の習字帖は、一般に手本よりも大いなる字を習はしむる樣式に成れるが故に、臨書の際に十分に手本を寫すこと能はず。本習字帖の編者は多年の經驗によりて、この不便を除くにあらずんば普通教育に於ける習字の上達竟に望むべからざるを信じ、製本及び體裁上の問題を第二に措き、專ら教授上に實際の效果を收めんことを期して、こゝに本習字帖を公にせり。

一本習字帖は材料を選ぶに實用を旨とし、專ら日常必須の語句、溫雅健全なる文章を採錄し、而してその間に書體と點畫との上に變化を求めて、間架結構を授くるに遺漏なきを期せり。通信往復の書簡文はその簡詳長短によりて次第し、配置の季節を參酌し、諸般の例に亙りて措辭作意の模範たるべきものを擧げ、別に附錄として色紙短册の書例を載せたり。

一本習字帖の大字小字細字の分量及び按排は、練習上の功程を參酌して配置上に變化あらしめたるものなれど、授業上の便宜によりて前後すること固より妨なし。

大正二年七月

開成館編輯所　識

上下左右

前後彼此

天地人木

火土金水

東西南北

春夏秋冬

世界國家

道府縣市郡區町村
華士族平民戸主籍
意ハ筆前ニアリ未
ダ筆ヲ下サザル時

胸ニ成式アリテ字
始メテ佳ナルヲ得
君臣父子
男女夫婦

兄弟朋友

母妻姉妹老幼伯叔

大小多少内外本末

忠孝和信

夫子之道忠恕而已
己所不欲勿施於人
陽氣發處金石亦透
精神一到何事不成

山川海陸高
低深淺廣狹
林野田園遠
近出入往來

中一の八

當今無同俗人風
創業難守成難
今雖成功不可

神佛社寺吉凶禍福
生死存亡貧富貴賤
是非善惡喜悲憂樂
安危緩急勝敗盛衰
眞二大志アルモノ
ハ克ク小物ヲ勤ム

於靈山會
與大比丘
衆千二百
五十人俱
菩薩摩訶
薩八萬四
千人俱

等差異同硬軟剛柔
長短太細方圓曲直
正邪順逆强弱優劣
遲速難易終始早晚
陰陽表裏縱横繁簡
詳略單複純雜精粗

醫師法
第十條
醫師ハ
其ノ業務
ニ關シ
知リタル
他人ノ
秘密ヲ
正當ノ
理由ナク
漏洩シ
又ハ
其ノ業務
ニ關シ
虛偽ノ
事ヲ
公ニ
又ハ
其ノ業務
ニ關シ
不正ノ
行爲ヲ
爲スコト
ヲ得ス

如是我聞一時佛在摩竭提國菩提樹下
與大比丘衆千二百五十人俱
爾時世尊食時著衣持鉢入
羅閱祇乞食於其城中次第
乞已還本處飯食訖收衣鉢
洗足已敷座而坐

人は一代名は末代
すきこそ物の上手
いそぎこの用なれば
徐かに書くべし

皇國ノ興廢此ノ一戰ニアリ
各員一層奮勵努力セヨ
書を三たび寫せば魯は
魚となり虚は虎となる

K220.7

大正二年七月廿一日印刷
大正二年七月廿四日發行

【中等】
一
二

【價定備字】
金拾貳錢

編纂者　開成館編輯所
著者　岡田起作
東京市小石川區小日向水道町七十三番地
發行兼印刷者　西野虎吉

東京市小石川區小日向水道町七十三番地
發行所　開成館
【振替口座】東京第五參貳貳番
大阪市東區心齋橋通北久寶寺町角
西部販賣所　三木佐助
東京市日本橋區數寄屋町九番地
東部販賣所　林平次郎

●著作權所有●
●複製嚴禁●